

1 年	問題場面をブロックや絵・図で表し、場面と式をつなげながら意味を理解する学習	児童 1 年 1 組 34 名
算数科	「のこりはいくつ ちがいはいくつ」	指導者 教諭 村井 光

1. 単元の目標

日常の事象から求残や求補、求差の場面を見出し、式に表すよさに気付き、減法を適用しようとする。

（関心・意欲・態度）

求残や求補、求差の場面を、どれも減法の関係として相互に関連付けてみる事ができる。
被減数が 10 以内の減法計算の仕方を 1 位数の構成に着目して考えたり、操作によって表現したりすることができ
きる。

（数学的な考え方）

被減数が 10 以内の減法計算が確実にできる。

（技能）

求残や求補、求差の場面など、減法が用いられる場合について知り、減法の意味を理解する。

（知識・理解）

2. 活動構成

視点 1 可能性を生みだし、学びを進める過程

本単元の主なねらいは、減法の計算が確実にできるよ
うになることである。このねらいに迫って学習を展開す
るとき、形式的な減法計算だけではなく、様々な問題場
面に合わせて減法を立式し使いこなせるようになること
が、子どもの自信が高まった姿であると捉える。

そのため、単元の導入では、初めての演算として、絵
やブロックを用いた操作活動を通して問題場面を正しく
捉えること、問題場面と式を結び付けることに重点を
おく。これらの活動によって、子どもたちは「どのよう
に動かせばよいか」という目標をもち、自分の力で試行
錯誤しながら操作活動に打ち込む。特に、求残と求補、
求差の場面の違いについて問題意識を焦点化し、整理し
ていくことで、さまざまな引き算の場面があることに気
付き、理解していくことで自信を高めていきたい。加法
では「どっちも合わせる」「片方をくっつける」といっ
た操作から意味を捉えた。減法では「どこを取り除く」
のか「何をよける」のかを明らかにして、その意味と式
を理解させていきたい。

単元の出口では、引き算ブック作りを通し、場面や条
件に合わせて自ら減法を活用し、「こんなお話も引き算
が使えるぞ。」という減法についての捉え方を深める。
そして、友達がつくった絵や図からお話を考え、それを
もとに式を確認する経験を豊富に積ませることで、様々
な問題場面で引き算を活用できるという実感を生ませ、
子どもの自信を高めていく。

視点 2 可能性を自信に高める教師の役割

本単元での思考の傾向を次のように分類した。

感覚類	文や絵からわかることをそのまま当てはめて考える。
経験類	既習や生活経験を生かして減法を考える。
関係類	問題場面やブロックの動かし方の違いを捉えながら考える。

本時では、答えが 3 であることと、引けばよいものに
着目して考え式をたてる【感覚類】、引く数の 5 に着目
して考え、式をたてる【経験類】、式に整合性をもたせ
るため 1 対 1 対応をして考え、式をたてる【関係類】が
現れると想定した。まず、感覚類と経験類の視点を位置
付けながら、よける物、式のたて方について価値付けて
いく。そこで、引くもの「10 こ」と式上での「- 5」
をつなげる視点として、1 対 1 対応のアイスクリームの
考え方を価値付け、感覚類と経験類の考え方に新たな見
方を付加させていきたい。後半では、他の求差の場面で
も同じようにできそうかを問い、学びを生かせる意識を
生むことで子どもの自信を高めていきたい。

8 時間扱い 本時（5 / 8）

残りはいくつになるかな。

引き算の式はどうかのかな。

残りの数を調べる時は、引き算をつかう。

うさぎが 8 ひきいます。おすは 3 ひきです。めすはなんひきですか。

どんな式になるのかな。

【感覚類】
めすは 5 だ。
 $3 + 5 = 8$ だ。

【関係類】
おすをよけて、
 $8 - 3 = 5$

【経験類】
 $3 + 5 = 8$ だと答
えが合わないな。

うさぎ全体からおすをよけるとめすの数になる。
おすをよけるから、引き算を使うんだ。

ほかのmondaiにちやれんじしよう。

引き算カードをならべてみよう。

虫食いのところには、どんな引き算が入るかな。

たて、よこ、ななめにみると、数の順番がみえる。

カードゲームをしよう。

1 枚も出せない時も、式にできるかな。

1 枚も出せない時は、0 を使って引き算の式をつくる。

アイスが 8 つ、コーンが 5 つあります。アイスはコーンよりいくつ多いでしょう。

どんな式になるのかな。

【感覚類】
 $13 - 10 = 3$
 $8 - 10 = ?$

【関係類】
 $8 - 5 = 3$
つなげて考えるよ

【経験類】
 $8 - 5 = 8$
コーンをどうしよう。

アイスクリームを 1 と数えて、 $8 - 5 = 3$ だね。

どちらがいくつ多いかな。

違いを求めた後、答えに「どちらが」をいれるといいね。

引き算ブックをつくろう。

お友達はどんなお話をつくっているかな。

絵を見ながら、お友達のお話を説明することができたね。

